

新しいことを始めて継続するためのヒントを「市民力による地域創生」をテーマに講演会を開催

11月20日、「モエレ沼芸術花火実行委員会実行委員長 糸川一也氏講演会」が総合ケアセンターゆくりで開催されました。この講演会は企業経営者や市民団体の代表などを講師に招き、「始める動機」「続けるモチベーション」「チーム作り」「お金」などについて話していただく講演会(全4回)の第1回目。

講師の糸川さんは、行政や大手企業の主導ではない、市民手作りの花火大会としてその運営形態が全国に広がる「モエレ沼芸術花火」の発起人です。当日は実行委員会を立ち上げたきっかけや、次の世代に引き継いでいくために必要な仕組みづくりなどを話しました。約30人の参加者は熱心に耳を傾け「ボランティアなどをまとめるために必要なことは何か」「地域の理解を得るにはどうしたらよいか」などの質疑が出ていました。



まちの未来を話し合う 第2回あつま復興未来会議を開催



11月16日、総合福祉センターで、町民参加型の話し合いの場である「第2回あつま復興未来会議」が開催され、20代から70代までの町民約20人が参加しました。今回のテーマは「地域の魅力発信」「町内のつながりづくり」「災害に強いまち・ひとづくり」「町民参加の復興」。参加者はテーマごとにグループに分かれて付箋や模造紙を使いながら意見を出し合いました。参加者からは「町民一人ひとりの意欲を繋げていくため、コミュニティ空間や場づくりに目を向けることが必要」、「被災体験や教訓を、次の世代や町外の方へ伝えていくことも大切」といった意見などが挙がり、町の復興や未来について活発な討議がされました。

11月18日から23日の6日間、北海道大学で「まちづくりと交通」について研究している学生が、「循環福祉バスめぐるくん」のバス停である総合ケアセンターゆくりで「バスの待ち時間の間、カフェスペースを設けることによる利用者の変化」の実証実験を行いました。カフェではクリスマスリース作りや学生の発表など日替わりイベントを開催。立ち寄った町民からは「楽しい時間を過ごすことができました。今後もうこうした場所を続けてほしいです」などの声がありました。また、実験に携わった学生は「過疎地域における公共交通の取り組みの難しさを改めて実感しました。この経験を今後の研究に役立てたいです」と語っていました。

バスの待ち時間を利用して 北大生によるコミュニティカフェ



前選挙管理委員会委員長の内山豊さん(厚和)に感謝状

平成15年10月から4期16年にわたり選挙管理員として、そのうち平成26年6月からは委員長として町の公平で公正な選挙に尽力された内山豊さん(厚和・69歳)に、10月29日、役場で宮坂町長から感謝状が贈呈されました。内山さんは「少しでも町民の皆さんの役に立ちたいと思い努めてきました」と笑顔で振り返っていました。



冬の火災に気をつけて 女性消防団員らが独居老人世帯に呼びかけ

11月10日からの防火査察を前に11月1日、胆振東部消防組合厚真消防団女性消防団員が町長室を訪れ、胆振東部消防組合管理者である宮坂町長へあいさつしました。

女性消防団は、毎年手作りの啓発グッズを携えて緊急通報システムを設置している住宅を訪問し、防火や防災の啓発活動を行っています。今年は有事の際にすぐ避難できるよう、約80世帯に非常用持ち出し袋を配布し、火災予防などを呼びかけました。

安全運転でのご帰宅を！ 安全連絡協議会が市街地で呼びかけ

11月11日、胆振東部地震災害復旧工事厚真町安全連絡協議会(塩田雅典会長)が、厚真市街地で「冬の交通安全運動」の一環として交通安全街頭啓発を行いました。

当日は、工事関係者約30人が市街地交差点からJAとまこまい広域付近の街頭に立ち、「交通ルールを守ろう」「ゆっくり走ろう」などの旗やカードを掲げ、帰宅を急ぐ工事関係車両などに交通ルールの遵守や交通事故防止を呼びかけました。



小林孝さん(京町)が 北海道国民健康保険団体連合会表彰を受賞

町嘱託医の小林孝さん(京町・72歳)が北海道国民健康保険団体連合会表彰を受賞し、11月22日に役場で宮坂町長から表彰状が伝達されました。

小林さんは、平成7年から町嘱託医を務められ、国保特定健診事業制度開始の平成20年度から集団健診、個別健診を受託するなど、町民の健康維持・改善に長年に渡り尽力された功績から今回受賞されました。小林さんは「緊急の往診や最期のみとりなど町民に寄り添うことが必要な地域医療において、苦労もありましたが、町民の役に立てたことを嬉しく思います」と話していました。

